

# 5 寺子屋だより

※題字／森川芳聲



筑前今様歌碑／福岡市東区青葉 原土井病院玄関前

歌碑のこころ

筑前今様

すのらみくに  
皇御国の武士は

いかなる事をか勤むべき

ただ  
只身に持てる赤心を

君と親とに尽すまで

※詳しい解説は12頁に掲載しています



母里太兵衛像／博多駅前

## もくじ

- 2 巻頭言 日本人の危機意識は正常か …… 山口 秀範
- 3 産経新聞 志明館報道記事
- 4 「偉人レポート」 …… 高見澤玉江
- 6 教師生活を振り返って③ …… 矢永 誠二
- 7 公立学校教師 退職の辞 …… 齊藤 啓亮
- 8 天地いつぱい⑦ …… 森川 徹
- 9 みとらしのあじさのまゆみ④ …… 廣木 寧
- 10 TERA KOYAふおとれぼーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 歌碑のこころ(23) 編集余録 余録の余録⑭



# 『日本人の危機意識は正常か』

代表世話役 山口 秀範

自転車運転が気になる

数日前、レンタカーを借りて公道に出ようとして、逆に駐車場へ入る車と鉢合わせしそうになりました。そこで、ちょっとバックしながら切り返して再び前進しかかった時、この二台の車のすき間僅か一メートルを、スピードも落とさず自転車が通り過ぎたのです。間一髪両方の車が気付いてブレーキを踏み接触事故を免れたものの、しばらく動悸が収まりませんでした。歩行中にも度々肝を冷やす自転車の危険走行を改善する手立てはないものでしょうか。

混雑時は車道を縫って進み、次の瞬間には歩行者並みに横断歩道を通り抜けるなど、特に都市部ではこれほど便利な乗り物はありません。しかし多くの自転車運転者に欠如している危機意識が、時として重大な事故につながっているのです。

車は必ず止まって自転車を優先することを疑わず、歩道では歩行者が自転車をよけるに違いない。何があっても自分は絶対安全だと信じていない限り、毎日気楽に乗っていられないと思うのは私だけでしょうか。

ウクライナ侵攻の報道

「どんな時も自分だけは安全に守られている」という根拠なき楽観は、自転車運転者の心理に留まらず、戦後八十年近く続いて来た日本人の防衛意識欠如と二重写しに見えます。

ロシアによるウクライナ侵攻以降連日報道される詳細な現地映像から、ウクライナ民衆への同情は高まるもの

の、これを他山の石として明日への備えを万全にしようとか、歴史を振り返って類似の体験を教訓とすべしという採り上げ方にはついぞお目にかかりません。

一方、百パーセント悪のロシアが罪なきウクライナを虐めているとマスコミが描く構図はいささか粗雑に過ぎ、もしそうならばそんな隣国に何故油断したのか、国内の親露勢力にどう対処して来たのか、今回の侵略の背景を明らかにしてくれません。

また爆撃で家を焼かれ肉親を失った住民や難民となつた人々の悲惨さには寄り添うものの、祖国を護るために海外から帰国してまで戦う兵士たちの動向はほとんど伝えません。この期に及んでも「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持」（憲法前文）出来るので、戦う心構えや愛国心など不要と言うのでしょうか。「自分だけは安全と妄信する病」は戦後日本人を根深く蝕んでいます。

忘れてはいけないこと

もう一つ大変気になっていることは、この二か月間一日も欠かさずロシアの攻撃を新聞紙上やTVの画像で流す反面、新疆ウイグルでの蛮行やミャンマーでの民衆弾圧など、世界各地で継続進行する人権抑圧は全く忘れられたかの如く伝えられないという偏りです。むしろ様々な事例を総合的に報じて、二十一世紀の現代でも理不尽が横行する世界の現実を広く共有し、克服への努力を促すことがメディアの使命と思うのですが。

歴史を教訓にするという大切な観点も殆んど見られま

せん。ロシアの侵略による暴挙と言えば直ぐに想起されるのは、昭和二十年八月九日の日ソ中立条約の一方的破棄でしょう。長引く南方戦線に投入されて手薄になった満州国境を怒涛の如く越えたソ連軍は、ポツダム宣言を受け入れて敵味方共に停戦した八月十五日以降も、非戦闘員も含む殺戮を繰り返して、北方領土の占拠に及んだのです。

その間の日本軍の奮闘や民間人男女の悲話は枚挙に暇なく、改めて父祖の気概や無念を思い出すべき時でしょう。さらには戦後六十万に及ぶ日本兵が主としてシベリアに抑留され極寒の地での強制労働に耐えたのです。約一割は二度と祖国の地を踏むことが叶いませんでした。

ロシアのみならず独裁国家の人権蹂躪は当時と全く変わっていないことが白日に晒された今こそ、我が国が戦後の長い眠りから覚醒する最後のチャンスと言うべきでしょう。

志明館の近況など

二月末に上梓した『日本の偉人100人+50人』の紹介チラシを本号に折り込んでいます。あちこちから反響を頂いておりますが、同書に取り上げた偉人の一人「信時潔」のお孫さんで、祖父の音楽研究家でもある裕子さんに贈呈したところ「簡潔に、且つ必要なことをすべて盛り込んでまとめられておりまして、祖父を知らなかつた方にも、よく理解していただけた」と喜んでくださいました。前著上下巻と併せて是非多くの偉人に出会ってください。

また次頁は「志明館」開校予定の記者発表記事です。これから二年間抜かりなく準備を進めて、日本の将来を託する人材の卵を輩出する学校を実現させます。ホームページも刷新していますのでご覧ください。